

V 戦士

徳島県バレーボール協会中学校専門部 便り 秋季 第59号

昭和から平成・令和へ

高橋 利明

その16 全中バレー徳島大会 ～プロローグ～

2006年（平成18年）夏、『全国中学校体育大会／第26回全日本中学校バレーボール選手権大会』（以下「全中バレー徳島大会」とする）が徳島県で開催されました。この大会実行委員長・事務局長として私が担当しました。2006年に徳島県で開催される（予定されている）ことは1998年か1999年くらいにはわかっていました。当然、自分も自チームが出場したい思がありました。しかし、2001年（平成13年）に中高校流の人事異動で徳島商業高校（以下「徳商」とする）に異動しており、3年間勤務の規定があるため自分としては無関係のモノと思っていました。この期間、自分の立場としても複雑な状況にありました。徳島県バレーボール協会としては高校専門部の一員でありながら中学校専門部の一員でもある。そのため、高校の試合はもちろん、中学校の試合にも顔を出すということになりました。2001年6月だったかと思いますが、中学校のY先生から「全中バレー徳島大会の事務局をするのは高橋先生ですね。」と言われました。私は、「えっ!？」と驚きと同時に「勝手に決めるな!」と内心腹が立ちました。それをするのは、県専門部長がすることであって、私はもうお役御免な状態であるからです。

ところで、徳商では1年目男子バレーボール部、2年目男子ソフトボール部、3年目自転車部の顧問でした。1年目の2月、徳商男子バレー部の顧問／監督 中野守先生（当時、徳島県バレーボール協会理事長 55歳で逝去）から来年度から監督をするように言われました。徳商男子バレー部と言えば、徳島県高校バレーボール界では県大会何度も優勝し、インターハイなどの常連校でした。私は、1日考えさせてもらった結果、断りました。その大きな理由は、中野先生がいる中、自分がずけずけと監督する訳にはいかないと判断したからです。しかし、今思えばきっと中野先生の体調が悪かったためだったのだろうと思いました。

その17 全中バレー徳島大会 ～視察と実行委員長（事務局長）～

2004年（平成16年）4月、再び中学校で勤務するようになりました。赴任した学校は、八万中学校でした。7月県中総体が終わったあと中学校専門部会が行われたとき、

その年の全中開催地への視察を行うメンバーを決めることになりました。井上肇（鷺敷中学校校長／徳島県バレーボール協会副会長で私の恩師），立石房徳（川島中学校／県中学校専門部長），島田聡（富田中学校／県中学校事務局長）の4名で行くことになりました。

視察した全中バレー川崎大会の会場である『かわさき等々力アリーナ』にまず行きました。地元中学生が工夫をした手作りの応援旗が会場一面につけられていました。『橘高校』ではカラーコートで試合が行われるという試合環境でした。ちょっとうらやましさを感じられ、このような盛大な大会を開催することに圧倒されました。また、開催する側の立場であるかという点はまだまだ自覚はありませんでした。また、今の状況の中で自チームが全中バレー徳島大会に出場できるのは難しいと感じていました。

2005年（平成17年）6月、中学校専門部会が徳島中学校会議室で行われました。この会議のメインは、誰が全中バレー徳島大会をお世話するかとうものでした。その前夜、私は風呂につかりながら1時間ほど考えました。自分がした方がいいかどうか……。最終的には自分からやろうと発言するように決めました。その大きな理由は、以前に他県の先生からの「徳島がまともに全中などできるはずがない。」という発言がありました。「それなら、他県ができないような全中をやってやる。それができるのは自分しかいない。“みておけ”。」という気持ちからでした。当日、立石房徳先生が「自分は、専門部長はやりたいが、全中の開催をする世話は自分ではできません。」という発言から約10秒くらいの沈黙後、「私は、（県）専門部長をやりました。もう専門部長は引退したと思っているから、再び専門部長をやりたいとは思っていません。しかし、全中の事務局をやってもよいとみなさんが了承してくれれば、私はやります。」と。すると、全員の先生から拍手をいただきました。「自分から“する”っていうこと自体がすごい。」と喋ってくれた先生もいました。そのとき自分としては「みんな、そんなにしたくないものなのか？」と残念な気持ちにもなったのは事実です。（このとき、後で後悔したことがありました。一つは事務局は専門部長がすべきである。もう一つは、したくないというより、みなさんそれぞれやることは別にあり、忙しくてできないということが分かったからです）

その年の全中は三重県で開催されました。前年度に比べて、しっかりとした目的を持った視察団にしなければなりません。競技、審判、総務など役割を分け、2人1組で取り組んでいくという形をとりました。しかし、視察前に驚いたことがありました。何と、視察するための交通費、宿泊費などはどこからも出ないということでした。そのため、費用は自前が原則でした。やる気満々のメンバーはいきなり腰砕けになり、意気消沈。仕方なく、メンバーを削減しなければなりません。バスをチャーターして行こうとしましたが断念。車を出してくれる先生を募り、結局2台（8人）で行くことになりました。

全中バレー三重大会のメイン会場は『三重県営サンアリーナ』でした。到着して見たときに全員が一瞬で唖然となりました。「こんな会場徳島にはない。どうすればいいんだ。」とにかく、ポーッと立ち竦んでいては仕方がない。まずは、人が多く集まっているところ（＝大会グッズ販売しているテント）に近づいてみました。一体、何故そんなに群がっているのか？どんなモノが売れているのか？また、売れていないモノは何か？……。 「な

るほど！！わかった！これで行こう！」（詳細は その18へ）

会場に入場はできたものの、何をどうすればよいか。当時、三重県専門委員長で実行委員長であった先生を探すしかない。携帯電話で連絡し、視察団に三重全中のポロシャツ、駐車場系の帽子などを提供していただき、大手を振って視察ができるようにさせていただきました。会場をくまなく歩き、どんな仕事をしているのか、そのためにはこれまでにどんなことをやってきたのか、気をつけることはないか、やっている間に新しく思いついたことはあるかなど、きっと忙しいにも関わらず様々な質問に対し答えてくれた三重県の先生方に頭が下がる思いでした。競技会場を離れ、練習会場・駐車場にも行って見ました。すると、そこで新しい発見ができました。「なるほど！！わかった！これで行こう！」（詳細は その18へ）

夕方になると宿泊先に帰り、休憩。みんなグロッキー状態でした。その中で視察費用の都合で1台の車は宿泊せずに帰途に就くことになりました。私をはじめとする5名は最終日まで残り、ありとあらゆるところを見て聞いていこうという意気込みで宿泊することになりました。

開会式の夜、役員や審判員の方々が集まるレセプションが行われました。私たちもその会場に呼ばれ参加しました。すると、最後に来年の全中バレー徳島大会のためにきた者を代表して私がスピーチすることになりました。心の中では、「えっ、そんなこと急に言われたも・・・。」と思いながら、スピーチを行いました。自分としては、かなりいいスピーチをしたと自画自賛でした。

大会2日目の夜は、全国から集まった審判の方々と懇親会。話をしながら最後には「来年の徳島大会よろしくお祈りします。」の連呼となりました。

しかし、その懇親会前に徳島県中学校体育連盟事務局澤口博之先生から電話がありました。その内容は、今年度開催されている東海地区における大会プログラムについてでした。「そこまでしなければ、大会が開催されないのなら大会は開催する必要はないのではないかな。中学校の大会であるのに・・・。」ただただ驚くばかりでした。そして怒り、戸惑いという気持ちが湧いてきました。

私は、大会費用がいくらかということが1番知りたかったことでした。残念ながら、誰もその金額を教えてくれる方はいませんでした。様々な情報の中で試算すると、一体これからどうやっていったらいいのかという途方に暮れる思いしかありませんでした。

大会最終日は、台風がやってくるという予報の元に行われました。そのため前日にある先生が発言したことを記憶にとどめています。（バレーボール競技ではなかったと思います）それは、「（台風がやってきたので）開催時間を遅らせて始めたため、その日試合が終わった時刻がものすごく遅くなった。」と。まるで、武勇伝のように。それって、正しいことなのか！？中学生をそんな時間までやらせるのはどんなものだろうか！？と。

大会最終日の開始時刻は大雨や強風はありませんでした。むしろ、台風が来ているとは思いませんでした。しかし、ここでも気になる発言がありました。警報はすでに発令されていた。疑問に思いながら、我々も台風の影響を受けて帰られないようになっては困

ると判断し、閉会式終了後すぐに、帰途に就くことにしました。（詳細は その23へ）

その18 全中バレー徳島大会

～大会プログラムの広告とグッズ販売・プログラムの表紙～

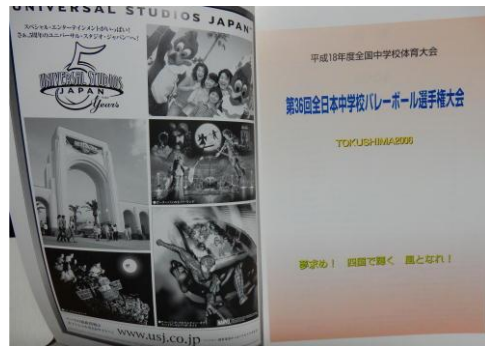
夏休みも終わりに近づき、徳島県中学校体育連盟事務局（以下「県中体連事務局とする」）で来年徳島県で開催する剣道、体操、新体操、バドミントンで5～6回目になる会議を行いました。私は、「開催費用を捻出するためには、『大会プログラムの広告』と『グッズ販売』について」について質問をしました。その後も紆余曲折ありましたが結局、『大会プログラムの広告』は11月1日から、『グッズ販売』1月1日からとなりました。

このことはお金のことに直結していることもありたくさんの方から意見がありました。しかしながら、私は現実を目を向けなければならないと思い、大会プログラムの広告取りの戦略を考えました。

- ①中学校の先生には県内の業者・企業に頼んでもらう。
- ②郡市別に割り当てを行ってバレー部顧問全員が行うようにする。
- ③私はまず2005年（平成17年）は、県外の事業所等に依頼する。
- ④2006年（平成18年）4月からは、事業所等に依頼する。

私は、幸いにも様々な大会プログラムの広告を取ることができました。

その中で2例を挙げると、1つ目は大阪のUSJです。前もってアポを取り、担当者と話をしました。その内容は、①徳島に東から来るチームは陸路・空路ともに大阪経由で来る。試合が終わったチームは、USJに行く可能性が十分にある。それで、団体割引のチケットを提供して欲しい。②大会プログラムの広告をして欲しい。③大会に多くの先生や生徒が役員として関わっているため、労をねぎらう方法の一つとして、そんな人たちのために割引券を提供して欲しい。というものでした。即答はいただけませんでした。すべて叶うことになりました。



2つ目は三重全中の視察のときに行った駐車場係の先生の様子を目の当たりにして思っていたことがありました。そして向かった先は、四国アイランドリーグ徳島事務局でした。「駐車場係の先生に大会プログラムの広告料分の徳島インディゴソックスの帽子を提供していただきたい。帽子の不足数はこちらで購入する。それを駐車場係の先生がかぶることにより徳島インディゴソックスの宣伝にもなる。駐車場係の先生からすれば、いい帽子がGETできて嬉しいと思うだろうし、その先生に子どもがいれば子どもは喜んでかぶるだろう。お互いWIN・WINではないで



しょうか。」と提案しました。後日連絡があり、快諾していただきました。

これは広告依頼ではありませんが、まずは夏休み期間中にボールメーカー（広島県に本社があるモルテン、明星ゴム（現在「ミカサ」））、Tシャツ・ポロシャツなどをお世話していただくスポーツメーカーの四国支社（香川県にある2社でミズノ、アシックス）に出向いて行きました。その意図は、「ボールや製品を使わないと大会が成立しないので、“使わせてください。大会前や期間中どうかよろしくお願いします。”」という思いからあいさつに行きました。

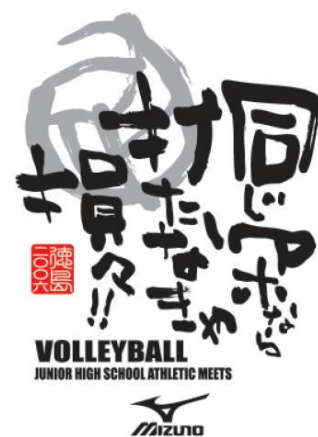
次は、グッズ販売です。まずは「大会マスコットキャラクター」の作成にとりかかりました。在任校の美術の先生と、絵の上手な生徒に依頼しました。コンセプトは、「①かわいい動物②バレーボール競技とわかりやすいキャラクター③みんなから喜んでもらえる④徳島ということがわかる」というものでした。そして、美術の先生が描いた鳴門の渦潮と生徒が描いたウサギをモチーフにしたデザインを最後に私がデザインを作り上げました。そして、私がネーミングしました。その名は「ジャンプくん」です。（このデザイン及び名称は特許庁へ商標登録をしました）



『ジャンプくん』は当初、心無い方からの発言もありましたが、大会当日になると、「ブサかわいい！」と評判になり、『ジャンプくん』グッズは完売しました。（詳細はこの後に記載）

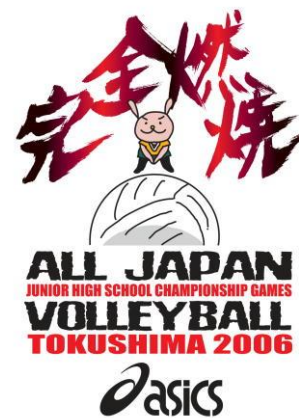
Tシャツを販売するにあたり、三重全中で何が売れているかを市場調査した結果、三重県で開催されたことが見てすぐわかるデザインであり、デザインがないシンプルなものよりもデザインとしっかり描かれているものが売っていました。（現在は“個性”優先でデザインよりもカラフルなカラーバリエーションに人気があります。）

また、決定的な意見がありました。それは、ママさんバレーの方からの意見でした。「白のTシャツより黒のTシャツが欲しい。下着が見えてしまうから。」というものでした。これは絶対に売れると確信し、ミズノとアシックスの営業担当者に黒のTシャツを作るように依頼しました。しかし両社とも、いい返事をいただくことができませんでした。「先生、黒のTシャツを作るならば白のTシャツより販売価格を300円上乘せしなければなりませんよ。売れないと思います。」という回答でした。「300円高かっても作ってくれ。売れるから。」今では、白のTシャツと黒のTシャツの販売価格が異なることなく売られることなく売っています。



ミズノとのデザイン交渉については、ミズノ側からいくつかのデザインを提供していた
だけ、それから選ぶという方法でした。ミズノからのデザインを提供されて一瞬に決めた
デザインがありました。しかし、私だけがいいと思っても他の人が見て反対されるかも知
れないと思い、3名の先生と相談し、決めることにしました。すると私の思ったデザイン
と一緒に。そのデザインのコピーが“同じアホなら打たなきゃ損々”で阿波踊りの“
同じアホなら踊りゃな損々”をもじったものでした。私は「この姉妹デザインを作ろう。
“同じアホなら拾わにゃ損々”で。」と。そのため、“同じアホなら打たなきゃ損々”の
白と黒のTシャツ，“同じアホなら拾わにゃ損々”の白と黒のTシャツの4枚をそろえる
ことが、まるでスタンプラリーの如く大会中に言われるようになって、完売しました。

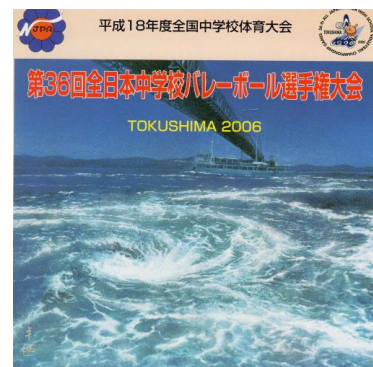
アシックスからは、まずコピー（文字）を考えて欲
しいということでした。提案したコピーは約20。ア
シックスの営業担当者からは「一つに絞って欲しい。」
といわれ、“完全燃焼”を選びました。“完全燃焼”
は全中バレー徳島大会のキャッチコピーにもしていま
した。（後でわかったことですが“完全燃焼”はアシ
ックスがすでにTシャツなどにプリントするときの登
録商標でもあったということです。）このTシャツの
売れ行きは少々遅かったのですが、デザインがよかつ
たこともあり、完売しました。



どうして全部完売したか？それには秘密があります。全中バレー川崎大会も全中バレー
三重大会も販売しているデザインと生徒補助員（全中バレー徳島大会では「生徒役員」と
いいました）が来ているデザインが違いました。その理由を尋ねると、「生徒補助員か単
にTシャツを買った生徒かをわかるようにするため」ということでした。私は、「同じで
もかまわない。余分なデザインをたくさん作るよりもコスト削減に繋がる。しかも、生徒
役員が来ていることによって観戦者が絶対に欲しくなる。生徒役員かどうかは見ればすぐ
にわかる。」そして、「たくさん作らない。在庫にならないようにする。」ということだ
す。ミズノもアシックスからも少ないように言われましたが、在庫を抱えて損するのはこ
ちら側。損したら、大会費用捻出ができづらくなります。しかし、絶対に売れると確信し
ていました。その方法の1つとして大会プログラムのなかにチラシを差し込むことにしま
した。（「買ってあげばよかった」という人や、買った人をみて「それ、欲しいな」とい
う人が後で現れるはずと読みました）。それで、ミズノにもアシックスにも大会終了後
にも注文があるから準備をしておいて欲しい旨を連絡しました。すると大会終了後も注文ひ
っきりなしでした。両社ともに「プリントするポロシャツ，Tシャツ共に底をついたので
注文を受けないで欲しい。」と連絡があるほどでした。

しかし、その裏でパソコンのマウスパッド、携帯電話のストラップ、うちわが在庫になりそうになりました。そこで、各チームの参加賞にすることにしました。

プログラムの表紙はどんなものにしようか考えていると、元木紀美子先生（当時、瀬戸中学校教諭）から提案がありました。そこで、「我々の仲間（役員）にしよう。そうすることにより、その絵を提供してもらおう。」ということでプログラムの表紙が出来上がりました。



その19 全中バレー徳島大会 ～プレ大会での惨敗～

2006年（平成18年）3月、高橋健太郎先生（全国中学校体育連盟バレーボール競技審判委員長／日本バレーボール協会中学校審判委員長）に来ていただき、プレ大会（審判クリニック）を実施しました。そのために、県内から男女4チーム、県外から男女4チームによる練習試合を北島町北公園総合体育館と松茂町総合体育館で行いました。しかし、プレ大会の運営方法を十分に把握できていない私は、全員の方々に迷惑をかけることになりました。参加してもらったチームはすぐにでも、平成18年度の全中ルールで練習試合ができると思っていました。しかし、審判部はその試合前に審判クリニックを行うことが前提にあることを全く理解できず、チームを連れてきた先生方からは、「まだ、試合ができないのか。」といわれたりしました。結局、予定より1時間以上待つて試合が始まりました。

また、2006年（平成18年）の徳島県中学校選手権大会もプレ大会として実施しました。ここでは特に、閉会式のリハーサルを中心に行いました。大会終了後、中学校専門部会（反省会）を行い、課題をそれぞれ出していき、徳島県中学校総合体育大会で、もう一度やってみることにになりました。しかし、役員の先生方から一番多かったクレームは昼食の弁当でした。350円という設定で注文してみると、「おにぎり2個と漬け物」でした。「もっといい弁当にして欲しい。」という声ばかりでした。

チームからの注文による弁当は、旅行会社が斡旋することになっていました。我々の弁当はいつも利用していた業者をお願いすることがよいと判断しました。そして、その業者と交渉した結果、役員の先生方からクレームの出ない弁当を提供できるようになりました。

その20 全中バレー徳島大会 ～実行委員会室（プレハブ）～

4月になると年度が替わります。徳島中学校の運動場の隅に5競技の事務局が入る狭いプレハブ。「えっ、何で？空き教室を貸してくれないのか？」それに対して「校舎は、学びの舎であり、徳島市のものである。全中の事務局に貸す考えはない。」ということでした。また、「運動場の隅にプレハブを建てるだけでも感謝するべき。」ということでした。

しかも、八万中学校教頭からは、「(割愛転任したわけでもないから)毎日、学校に来てからプレハブに行くように!プレハブに直接行くことは認めない。毎日学校から出張するという形をとれ。」これでは、要領よくやれるはずはありません。結局、【4~5月いっぱいまで八万中学校経由徳島中学校運動の隅にあるプレハブ】という勤務経路になりました。また、八万中学校の教員であるからということで、5月下旬に行われた体育祭も準備から開催まで参加しました。このままでは、全中の準備が上手くできないため、自宅から直接、プレハブに行かせて欲しいと嘆願し、6月からやっとのことで了解が取れました。

4~6月上旬の午前の仕事は、各学校に連絡して全中バレー徳島大会の役員依頼を行うことでした。教員への電話連絡は、休み時間の限られた時間にしか電話ができないので、その間の50分は広告依頼の電話を行い、午後からは実際に事業所に出向いての交渉に費やしました。16:00頃になるとやっど他競技の事務局が帰り始めます。そこからやっど自分の事務的な仕事を始めることができました。何せ、印刷機、コピー機は1台しかないため5競技が一斉に使うことはできませんでした。そのため、帰る時刻は早くても深夜1時は回り、帰宅して夕食・入浴をとるため、就寝は毎日2時を過ぎていた。

7月1日は、事務的なこととしてはまさに「Xデー」でした。7月1日付けで全国の関係者に文書を送らなければならなかったからでした。そして、それと重なり徳島市中学校総合体育大会が6月下旬に開催された。(大会は4日間開催)私としては、行かなければならない義務はありませんでしたが、徳島市の先生方に全中バレー徳島大会の仕事に対して協力をしてもらわなければならないという思いで審判員として出向きました。昼間は試合会場で審判を行い、夕方はプレハブに帰って事務処理を行いました。4日目の朝、プレハブで「もしかして、4日間寝てなかったかなあ!もう家に帰って寝ようか・・・。」けれども、その日の午前中に開会式関係の打ち合わせ依頼があったため、それが終わってから帰宅し、爆睡しました。(詳細は その23へ)

何とか、全国各地に文書発送を終えて、ホッとしたときまた新たな問題が起こりました。それは、7月3日(木)26時(正確に言うと7月4日(金)2時)に帰宅すると、食卓に手紙がありました。読んでみると、家人と私の父とのトラブルが発生したことから起因したことでした。

他にも仕事を発注した事業所の身内に関するトラブルにも巻き込まれることもありました。様々な困難なことがありました。そのため、徳島県中学校総合体育大会バレーボール競技(徳島市立体育館。以下「県中総体」という)の決勝後に、役員の先生方を前についに心からの叫びを声に出しました。「もう、心身共に疲れ果てています。どうか助けてください。」

6月から役員の先生方が役割の仕事をし始めましたが、やはりその機能を発揮できるようになったのは県中総体からでした。

土成など 3回戦へ

女子
県中学バレー

バレーボールの2022年度徳島県中学校選手権は29日、男子9チーム、女子49チームが参加して阿南中などで開幕した。女子の1、2回戦が行われ、土成、池田などが3回戦に進んだ。男子はトーナメント戦の対戦相手を決める予選リーグ戦が行われた。

【男子】予選リーグ戦Aの阿南が勝つ穴吹1勝1敗、阿南が勝つBの城東2勝の鴨島1・市立川島1勝1敗、松茂2敗、Cの津田1勝、小松島南1勝1敗、鴨町2敗。

【女子】1回戦 土成2-0大八、大八2-0窪田、小松島南2-0三好、三好2-0羽ノ穂、土成2-0海陽、穴吹2-0

島東2-1徳島、川2-1山内、海陽2-1穴吹、市川南2-1石井、2-0城東、勝浦2-0勝、阿南2-0新野、阿南2-0相模、新野2-0相模、松茂2-1吉良、穴吹2-0半田、吉野2-0高橋、市川南2-0三野、2回戦 津田2-0上板、小松島南2-0大八、土成2-1小松島、羽ノ穂2-0加茂名、板野2-0日和佐、池田2-1鴨町、阿南2-0山川、藍住2-0鴨島、鴨町2-0三好、海陽2-0城東、阿南2-0阿南、阿南2-0美馬、勝浦2-0上勝、北見、鴨島2-0穴吹、半田、松茂2-0山城、池田2-0南部、市川南、鴨町2-0吉野

南部など 準決勝へ

県中学バレー

バレーボールの2022年度徳島県中学校選手権第2日は30日、松茂町総合体育館などで男女の準々決勝までが行われ、男子は南部、穴吹、鴨島1・市立川島、城東、女子は津田、小松島南、阿南・阿南1、鴨町1が準決勝に進んだ。

【男子】決勝トーナメント1回戦 松茂2-0鴨町、準々決勝 南部2-0松茂、穴吹2-0津田、鴨島1-市立川島、小松島南2-0阿南

【女子】3回戦 津田2-0土成、小松島南2-0羽ノ穂、阿南2-0板野、藍住2-0池田、阿南・阿南2-0鴨町、海陽・穴吹2-0勝浦、上板、阿南2-0鴨島、鴨町2-0松茂、準々決勝 津田2-0阿南、小松島南2-0窪田、阿南2-0阿南、阿南2-0南部、鴨町2-0海陽、穴吹

津田、接戦制し初V

男子 南部5年ぶり10度目

【本紙記者 津田 浩二】津田は、男子バレーボール部が、5年ぶり10度目の全国大会優勝を果たした。決勝で、東海大学を3-0で破り、初優勝を飾った。

津田は、決勝戦で、東海大学を相手に、3-0で勝利を収めた。試合は、津田のペースで進み、1セットからリードし、最終的に、3-0で勝利を収めた。津田は、決勝戦で、東海大学を相手に、3-0で勝利を収めた。試合は、津田のペースで進み、1セットからリードし、最終的に、3-0で勝利を収めた。



津田浩二、男子バレーボール部、5年ぶり10度目の全国大会優勝を果たした。

津田 生かす機決定 エース

津田浩二は、男子バレーボール部のエースとして、決勝戦で活躍した。津田は、決勝戦で、東海大学を相手に、3-0で勝利を収めた。試合は、津田のペースで進み、1セットからリードし、最終的に、3-0で勝利を収めた。



男子決勝・南部対東海 141観客で

【第1】

東海大学	0-3
津田	3-0

【第2】

東海大学	0-3
津田	3-0

津田は、決勝戦で、東海大学を相手に、3-0で勝利を収めた。試合は、津田のペースで進み、1セットからリードし、最終的に、3-0で勝利を収めた。

【令和4年度四国中学校総合体育大会／JOCジュニアオリンピックカップ
第36回全国都道府県対抗中学校バレーボール大会徳島選抜結団式】

<p>【男子】準決勝 徳島 2525 〇 香長 2625 2410</p> <p>【女子】準決勝 徳島 2017 〇 丸島西 2525 2017</p> <p>【男子】1回戦 徳島 2525 〇 香長 2625 2410</p> <p>【女子】1回戦 徳島 2017 〇 丸島西 2525 2017</p> <p>【男子】1回戦 徳島 2525 〇 香長 2625 2410</p> <p>【女子】1回戦 徳島 2017 〇 丸島西 2525 2017</p>	<p>【男子】準決勝 徳島 2525 〇 香長 2625 2410</p> <p>【女子】準決勝 徳島 2017 〇 丸島西 2525 2017</p> <p>【男子】1回戦 徳島 2525 〇 香長 2625 2410</p> <p>【女子】1回戦 徳島 2017 〇 丸島西 2525 2017</p> <p>【男子】1回戦 徳島 2525 〇 香長 2625 2410</p> <p>【女子】1回戦 徳島 2017 〇 丸島西 2525 2017</p>
--	--

県選抜 健闘誓う

JOC 中学バレー

「JOCジュニアオリンピックカップ第36回全国都道府県対抗中学バレーボール大会」（日本バレーボール協会、読売新聞社など主催）に出場する県選抜チームの結団式が27日、徳島市南部中学校であり、選手らが健闘を誓った。

男女各12人の選手を前に、県バレーボール協会の立石房徳副会長が「県代表として恥じないプレーを」と激励。津田中3年の佐藤美咲主将（16）が「バレーができる喜びを胸に練習に励み、最高のチームにしていきたい」と話した。

同中3年、吉永龍成主将



結団式に参加した県選抜の●男子チーム ●女子チーム（いずれも徳島市で）

（14）は「まずは1勝を目標に、選手それぞれの個性を發揮して生き生きとしたプレーを見せたい」と意気込

んだ。

大会は12月25、28日、大阪市内の丸善インテックアリーナ大阪（大阪市中央体育館）などで開かれる。

選手と監督、コーチらは

- 次の通り（敬称略）。
- ◇男子▽監督 和田研作（津市）
 - ▽コーチ 鴨川広誠（南部）
 - ▽マネジャー 久米健太（脇町）
 - ▽選手 今井龍樹（南部）、清水俊輝（同）、横山一貴（同）、高橋倫次（城東）、長瀬遥翔（同）、中村心（同）、鎌田翔大（津市）
 - ◇女子▽監督 大野圭一郎（鴨島第）
 - ▽コーチ 矢野耕資（八万）
 - ▽マネジャー 吉田優依（南部）
 - ▽選手 佐藤美咲（津田）、大元優羽（同）、谷口恵（同）、龜屋陽花（阿南第）
 - （二）入江茜（同）、友成そよ（土成）、山崎心（南部）、太西舞和（小松島）、前田くるみ（小松島南）、上田優月（鳴門市第）、橋本ひまり（吉野川市立川島）、桃井盛実（山川）